



世界冬の都市市長会 広報誌

日本語特別号

2009年10月発行

World Winter Cities Association for Mayors

〈世界冬の都市市長会事務局〉

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目 札幌市総務局国際部内 TEL 011-211-2032 FAX 011-218-5168

e-mail : wwcaml@city.sapporo.jp URL : http://www.city.sapporo.jp/somu/kokusai/wwcam/

第14回世界冬の都市市長会議開催へ

～2010年1月 エストニア・マールドゥ市が主催～

北極圏の主要都市ノルウェー・トロムソ市において、本年8月19日～21日に世界冬の都市市長会実務者会議が開催され、会員都市を中心に世界各地の6カ国9都市から28名が参加しました。議題の中心は、2010年1月にエストニア・マールドゥ市が同国の首都タリンで開催する第14回市長会議の開催計画に関する協議で、同市からプレゼンテーションが行われました。次期市長会議のメインテーマは「北の都市における環境保全の特性」です。環境問題は、近年、本会が特に力を入れて取り組んでいるテーマです。

我々と共に、地球環境問題や冬の都市が抱える問題について英知を結集しましょう。皆様方の積極的な参加をお待ちしております！



旧市街地が世界遺産にも登録されているエストニアの首都タリン
(2010年マールドゥ市長会議開催予定地)

2009年トロムソ実務者会議開催概要

- 1 会期：2009年8月19日(水)～21日(金)
- 2 会場：ラディソンSASホテル・トロムソ(ノルウェー・トロムソ市)
- 3 会議内容
 - (1) 次期市長会議の開催計画案の協議(開催市：エストニア・マールドゥ市)
 - (2) 本会の運営に関する協議
 - (3) 次期実務者会議開催市に関する協議
(2010年夏頃にモンゴル・ウランバートル市で開催予定)
 - (4) 第16回(2014年)世界冬の都市市長会議の開催都市の募集について



会議を主催したトロムソ市のアルド・ハウスベルグ市長



次期市長会議への参加を呼びかけたマールドゥ市のギオルギ・ブストロフ市長



実務者会議の議長を務めた札幌市の中西事務局長(左から2人目)



実務者会議参加者

参加者

- ◎会員都市：6カ国9都市/25人
長春、ハルビン、瀋陽(以上、中国)、マールドゥ(エストニア)、札幌(日本)、太白、華川(以上、韓国)、トロムソ(ノルウェー)、アンカレッジ(アメリカ)
- ◎オブザーバー参加：2団体/3人
ロングイェールピエン市、ノルウェー国立住宅銀行(以上、ノルウェー)

2009年トロムソ実務者会議報告

以下は実務者会議を主催したトロムソ市の首席行政官ゴリル・ベルトゥセン氏からの報告です。

トロムソ市は2009年の実務者会議を主催しました。6カ国9都市の代表の皆様をお迎えできたことを誇りに思います。

トロムソはノルウェー北部に位置しています。人口67,000人のとても小さな町ですが、素敵なホテルやレストランが軒を連ねております。実務者会議は市内中心部のラディソンSASホテルで行われました。初日には、来年エストニアで開催される市長会議の主催者であるマールドゥ市より、よく練られた計画案が提示されました。

会議初日のトロムソ主催歓迎夕食会では、地元レストランの食事と仲間とのひとときを楽しんでいただき、大変嬉しく思っております。

会議2日目には、各小委員会による報告・発表が行われ、各都市との情報交換を行いました。その日の夜には、札幌市主催の素晴らしいレセプションが開催されました。



実務者会議の様子

会議最終日の行政視察では、トロムソの下水処理施設を訪問しました。また、市役所では、当市の都市計画担当が利用している様々な地図情報システムをご紹介します。昼食後には市内視察をして、トロムソの町を楽しまれたことと思います。

2009年の実務者会議を主催でき、光栄に思います。今回の会議が参加都市の皆様にとって実り多きものとなりましたら幸いです。



2010年マールドゥ市長会議概要

- 1 日程：2010年1月20日（水）～23日（土）
- 2 会場：スイソテル・タリン（エストニア・タリン市）
- 3 メインテーマ：北の都市における環境保全の特性
サブテーマ：①冬の都市の多文化社会、②電子情報化社会

【テーマの決定にあたって】（マールドゥ市長からのコメント：関係分要旨）

「持続可能な発展には、環境問題のみならず社会要因も考慮すべきであり、多文化共存への理解が重要である。また、情報化を進めることによって、人々が幅広くつながることも重要で、情報化社会、多様化する社会の中でどのように環境を守っていくか議論したい。」

- 4 市長会議開催プログラム（一部変更となる場合があります）

日程	プログラム
1月20日（水）	●開会式 ●役員会 ●総会 ●行政視察 ●マールドゥ市主催オープニングレセプション
1月21日（木）	●第16回市長会議開催都市選考 ●「冬の都市環境問題小委員会」（事務局：札幌市）最終報告 ●「自治体の諸活動における環境保全活動調査小委員会」（事務局：アンカレッジ市）最終報告 ●市長会議セッションI ●世界冬の都市市長会事務局主催レセプション
1月22日（金）	●市長会議セッションII ●全体会議 ●閉会式 ●市内視察（マールドゥ/タリン） ●フェアウェルディナー
1月23日（土）	●観光視察（任意参加）

- 5 その他：

- ・今回は「市長会議」のみの開催となり、従来の市長会議の併催イベントである、「冬の見本市」及び「冬の都市フォーラム」は開催されません。ただし、環境問題の専門家などの有識者による講演が行われる予定です。
- ・登録料は一人500ユーロとなります。これには、タリン空港とホテル間の送迎、行政視察（観光視察は別料金）、夕食会参加費用等が含まれます。
- ・会議の詳細については、公式ウェブサイト（英語のみ、<http://www.maardu.eu/>）に掲載されておりますので、そちらをご覧ください。



マールドゥ市長会議の公式ロゴマーク



2010年1月に次期市長会議が開催されるスイソテル・タリン（ホテル）



世界冬の都市市長会とは

「世界冬の都市市長会」は、“冬は資源であり、財産である”というスローガンのもと、世界の冬の都市が集まり、冬の技術や経験を学びあうためのネットワークです。以前は、北方都市市長会議と呼ばれ、1981年に札幌市が提唱し、翌年に第1回の市長会議を開催したのが始まりです。2004年に名称を「世界冬の都市市長会」に変更しました。

これまでの会議では、都市計画、冬の都市交通、除排雪、リサイクル、冬の観光資源開発などについて市長同士がそれぞれの都市の知恵と経験を共有し、まちづくりのアイデアや厳しい気象条件を克服する手立てを学んできました。近年の会議では特に、地球温暖化問題などの環境問題に力を入れて取り組んでいます。



第13回市長会議（開催地：グリーンランド・ヌーク市）での上田会長（札幌市長、写真右）

冬の都市とは

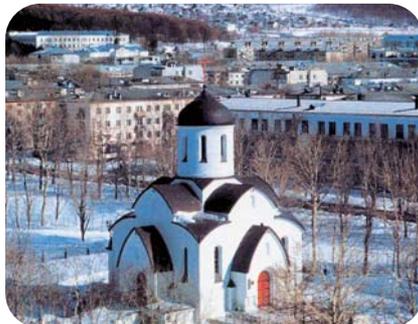
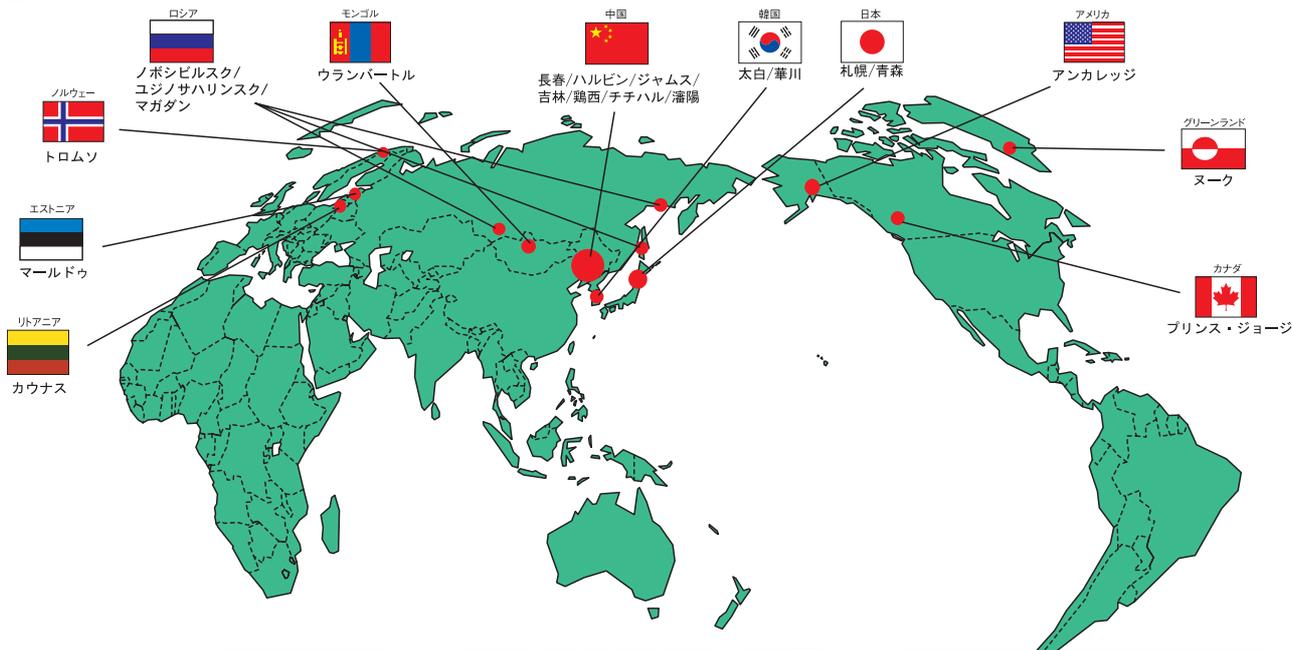
積雪または寒冷という気象条件のもとでまちづくりを行う都市。

積雪の基準・・・1年間のうちで積雪量の最大値が概ね20cm（8インチ）以上となること。

寒冷の基準・・・1年間のうちでもっとも寒い月の平均気温が概ね摂氏0度（華氏32度）以下となること。

会員都市

11カ国21都市（2009年10月現在）



主な活動内容

市長会議

世界冬の都市市長会の主要事業であり、2年に1度開催されます。

これまで13回の会議が開催されており、地球環境問題、都市計画、冬の都市交通、除排雪などについて、市長同士が先駆都市の知恵と経験を共有し、「まちづくり」へのヒントや厳しい気象条件を克服する手立てを学んできました。

市長会議は、市長自らが各都市の取り組み事例を紹介し、市長同士が膝を交えて率直な意見交換を行う格好の機会となっています。



市長会議の様子(第12回長春会議)

小委員会

冬の都市の状況や先進事例を調査・研究する機関です。

これまでに、「リサイクル小委員会」、「観光促進小委員会」、「雪対策小委員会」、「自然災害対策小委員会」、「持続可能な冬の都市づくり小委員会」等が設置され、それぞれのテーマに基づいて調査・研究成果をまとめています。

現在は「冬の都市環境問題小委員会(事務局:札幌市)」及び「自治体の諸活動における環境保全活動調査小委員会(事務局:アンカレッジ市)」が活動しており、「地球規模の環境問題」を切り口に、環境教育や自動車問題といった身近な問題から、大気汚染や水質汚濁などの公害対策技術、省エネルギー技術の先進事例の収集まで幅広い活動を行っています。また、最新の活動状況を世界冬の都市市長会のウェブページにて発信しております。



小委員会報告書

冬の見本市、冬の都市フォーラム

冬の見本市・冬の都市フォーラムは、市長会議と併せて行われる、併催事業です。

「冬の見本市」は、開催市および会員都市の企業や団体が中心となって、冬や雪に関連する機材や製品の展示をはじめ、様々な技術の紹介を行うものです。

「冬の都市フォーラム」は様々な分野の専門家や学術研究者、あるいは市民が、日頃の研究成果について発表を行う学術交流の場です。1988年の第3回会議から併催されるようになり、世界冬の都市市長会議は、大きなイベントに発展しました。



冬の見本市(第11回アンカレッジ会議)

実務者会議

会員都市の行政実務者が集まり、次期市長会議の開催計画やテーマ、市長会の運営などについて協議する会議です。毎年行われています。

会員になるには

入会手続き: 会員になるには、入会しようとする都市の市長が会長に入会を申請し、役員会で入会が決定されます。

会費: 会員都市は、都市人口と国民1人あたりの国内総生産額(GDP)を基準として算出される年会費を払わなければなりません。ただし、入会初年度の会費納入金額は、年会費の半額となります。

会員になると: 会員になると、市長会議などの活動に積極的に参加し、冬のまちづくりに生かしていただくことが期待されます。さらに、冬の都市のネットワークを国際交流に生かすことができます。

申込み先: 世界冬の都市市長会事務局
TEL 011-211-2032

最新の会議内容やこれまでの成果についての詳しい情報を、世界冬の都市市長会のホームページに掲載していますので、是非ご覧下さい。(http://www.city.sapporo.jp/somu/kokusai/wwcam/)

世界冬の都市市長会は会員都市を募集しています。加入の詳しい要件などについては、世界冬の都市市長会事務局までお問い合わせください。

自治体の諸活動における環境保全活動調査小委員会 (事務局：アメリカ・アンカレッジ市)

実務者会議に併せて、第2回目となる「自治体の諸活動における環境保全活動調査小委員会」が開催され、発表を行った同小委員会事務局のディック・スタローン氏より、以下のとおり報告がありました。

アラスカ州アンカレッジ市が実施している冬期気候対策の一つである屋外灯LED事業の成果について報告いたします。この取り組みは環境への配慮だけではなく、経費や労働力の効率化にもつながっています。

市内には16,000の街路灯、1,500の山道灯、そして何百ものバス停照明や歩行者用信号などがあります。LED技術はエネルギー消費を半分に削減できる可能性を秘めています。これを詳しく調査するため、本市ではLED街路灯を4,000本設置し、その効果に関していくつかのレベルでの実地試験を行いました。地元住民の評価では、従来のHPS技術（オレンジ色の高圧ナトリウム灯）よりも圧倒的に新しく設置した白色光の街路灯が高く支持されました。

- 4,700ケルビンの白色光は自然の月の光と調和し、人にも優しく、夜行性動物の行動を妨げない。
- 街路灯の規格は夜の空に向かって光が放たれない光害フリー保証のものとした。また、住宅への光の侵入を回避するため、住宅側にシールドが付いているものとした。
- 白色光は実際の色を認識することができ、コントラストがはっきりしているため暗闇ではっきりとした視野を確保することができるという試験参加者の感想を得た。この取り組みは、自動車と歩行者の双方に対してより安全な状況をつくり出すことを可能にする。

LEDの寿命は従来のHPSランプより7倍以上長い15～17年で、これにより保守費用を大幅に削減することができます。省エネ効果のみで、投資費用の元を6～7年で取れる計算です。第一段階の実施後、9ヶ月が経過していますが、節電目標を達成し、予想を上回る成果が期待できそうです。また、住民からも大変好評を得ています。



LEDを用いた環境への取組事例を発表した、アンカレッジ市のディック・スタローン氏



冬の都市環境問題小委員会 (事務局：日本・札幌市)



小委員会で議長を務めた札幌市環境局の粟崎課長

トロムソ実務者会議に併せて、「第4回冬の都市環境問題小委員会」が開催されました。その中で、本年2月に実施した「会員都市共通節電キャンペーン」の結果報告が行われ、参加都市から環境問題に関する市民意識の向上に寄与したとの報告がありました。

その後、事務局より、第2回共通キャンペーンとして、より積極的に地球環境を守るためのキャンペーン・ポスターの掲示を提案し、11月から実施することとなりました。

続いて事例発表があり、最初に札幌市から、「スリムシティさっぽろ計画の取り組み」について発表を行い、ごみ減量・リサイクルを進める上での課題や具体的な施策について報告がありました。

次に、ノルウェー・トロムソ市から「住宅のエネルギーの効率化」についての紹介がありました。同市では2020年までに温室効果ガスの排出を50%削減する目標を掲げ、ここ数年、管理する建物の建替えの際、水を媒体とするヒートポンプを主なエネルギー源とする暖房システムを導入しているとの報告がありました。

最後に韓国・太白市より、同市における気候変動の影響について発表があり、夏期には豪雨が頻繁に起きるようになったことや、80年前に比べ冬期が1か月短くなり冬関連産業が縮小したことなどが報告されました。



第2回キャンペーン用ポスター

次期市長会議開催市紹介 (エストニア・マールドゥ市)

次期市長会議を開催するマールドゥ市による都市紹介です。

エストニア・マールドゥ市は、同国の首都タリンにて第14回世界冬の都市市長会議を主催いたします。本会の会員都市とお互いの理念や構想を分かち合えることを誇りに思います。会員都市から20名以上の市長、また、政府や国際機関からの代表者や世界で活躍する有識者が集まり、環境保護をメインテーマに、社会、文化、技術の発展に焦点を置いた話し合いを行います。

マールドゥ市は新興都市ですが、他の都市には見られない特徴がたくさんあり、産業基盤もしっかりした町です。マールドゥ市では30年前に市制が敷かれ、自治体として独立しました。16,503人が住み、人口規模ではエストニア共和国第7番目の都市です。市の面積は24 km²で、エストニアの首都タリン市から15 kmの場所



マールドゥ市の中心部に建てられた教会は街のシンボルです

に位置しています。

今の時代はこれまでにないほど、世界規模の問題への取り組みにおいて国際的な協力体制が重要になってきています。相互理解と相互支援、そしてブレーストーミングを行うことにより、この難しい時期を乗り切る策が見つかるかもしれません。2010年にマールドゥ市が開催する世界冬の都市市長会議では、私たちが期待する成果が得られるものと信じております。会員都市が一丸となることで、より強くなることができるのです。

マールドゥ市は第14回世界冬の都市市長会議で皆様をお迎えできるのを楽しみにしております。



エストニアはスポーツも盛んで、試合が始まると多くの観客で溢れます



伝統的な衣装に身を包んだ、アーモンド売りの美しい女性を街のあちこちで見かけます